

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

名古屋短期大学教務委員会、名古屋短期大学FD委員会

(責任者名) 小川 絢子

(役職名) 教務部長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	学務部教務課にて本プログラムの履修・修得状況を管理するとともに、同データは名古屋短期大学教務委員会にて評価・改善のための資料として活用している。
学修成果	学務部教務課が実施する授業アンケートにおいて、到達目標の達成度、身についたと感じる学修成果を把握することができる。これらのデータは名古屋短期大学FD委員会にて評価・改善のための資料として活用している。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	学務部教務課が実施する授業アンケートにおいて、授業内容の理解度を把握することができる。同データは名古屋短期大学教務委員会、名古屋短期大学FD委員会にて評価・改善のための資料として活用している。また、授業担当者は授業計画において小テストや課題を設定し、学生個々の理解度を把握し、授業運営の改善に役立てている。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	本学では全授業を対象とし、学期末授業アンケートを実施している。次年度は、前年度授業アンケートの結果を含めたHPIにおける当該プログラムの公開、新入生オリエンテーションや履修ガイダンスにおける当該プログラムの説明の強化を行い、数理・データサイエンス・AIに係る関心や学ぶことの意義への理解を促進する取り組みを行う。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	周知機会を増やして学生の関心を高めるため、新入生へ配布する『Campus Life Guide』やシラバスにおいて数理・データサイエンス・AI教育プログラムのリテラシーレベルに該当する科目であることを記載することを検討、また、新入生オリエンテーションや履修ガイダンスにおいて、各学科教務委員等より当該プログラムを説明する機会の拡充を図る。さらに、シラバス作成依頼時や非常勤講師打合せ会において当該プログラムを授業担当者へ説明し、できる限り多くの学生が履修・修得できるよう、LMS等の活用を強化するよう推奨する。自己点検・評価活動や関心・理解を促進する取り組みを踏まえ、内容・水準の維持・向上、学修意欲の喚起に資する教育活動を継続する。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	学務部学生課では、卒業年次生に対し、進路・就職状況アンケートを行うとともに、卒業後1年が経過した卒業生にアンケート調査を実施している。これらにより、今後、当該プログラム修了者の進路、活躍状況等を把握することが可能である。また、正課に配置する学外実習（インターンシップ、教育実習、等）実施時の教員による巡回指導、連携協定を結ぶ自治体との協働活動、大学評価委員会が定期開催する外部評価において、当該プログラム修了者の活躍状況や学外からの評価を収集する。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	正課に配置する学外実習（インターンシップ、教育実習、等）実施時の教員による巡回指導、連携協定を結ぶ自治体との協働活動、大学評価委員会が定期開催する外部評価において、当該プログラムへの意見を収集する。修了者の活躍状況を含めた学外からの意見は教務委員会において集約し、当該プログラムの改善・向上に活用する。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	各授業において、数理・データサイエンス・AIが実社会でどのように利活用されているか、題材は身近なテーマを取り上げ、学生の実体験に即した経験として捉えることができ、学ぶ楽しさや学ぶことの意義を理解するように促している。また、資料配布やLMSを活用したフィードバック等、授業外に行うべき学修活動（準備学修・事後学修）を促進する取組を授業担当者へ奨励している。これらの取組は、学務部教務課が実施する授業アンケートにおいて学修行動（予復習や自主学習への取り組みも含めこの授業に意欲的・積極的に取り組んだか、関連する内容により興味を持ちさらに学びたいと感じたか）として把握し、授業運営の改善に役立てている。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、	学務部教務課が実施する授業アンケートにおいて、「分かりやすさ」（教員の話し方や説明は分かりやすかったか、教材の使い方は適切だったか、質問ができるような機会や工夫があったか）や授業内容の理解度を測り、授業担当者への反省材料とするとともに、同データは桜名古屋短期大学教務委員会、名古屋短期大学FD委員会にて評価・改善のための資料として活用している。また、授業担当者は授業計画において小テストや課題を設定し、学生個々の理解度を把握したり、フィードバックや解説を行うことで学生の理解を促進する工夫をしている。